知覧の十五夜そらよい

【所　在　地】南九州市知覧町中部地区（中福良，迫，瀬戸山，瀬世，枦場，浮辺，加治佐）（知覧町そらよい保存会）
【種　　別】県指定無形民俗文化財
【指定年月日】昭和 55 年 3 月 31 日

そらよいは旧暦八月十五夜の綱引きにともなう行事である。，原則として 7 ～ 14 歳の男子で構成される子ども組の行事で，14 歳のオヤンカシタ（親頭）の指揮ですすめられる。行事の内容は集落によって様々な変化があるが，中福良の例を記しておこう。

十五夜が近づくと, 子どもたちは親や先輩の助けをもらいながらワラでヨイヨイガサ（ワラ製のカサ）と，腰につける蓑をつくる。カサの頂きにはワラで作った見事な飾りがついているが，これは，年齢に応じて簡単なものから複雑なものへと変化している。広場で，綱引きが終ると，土俵あるいはその周りで「そらよい」が行われる。中にオヤンカシタの入ったワラコヅミ状の山傘のまわりをヨイヨイガサをかぶりワラミノをつけた子どもたちが歌をうたいながら回る。山傘の中からオヤンカシタがサアと声をかけると子どもたちは内側を向いて，唱え言に合わせて足で四股をふむ。

終るとまた静かに山傘の周りを回る。これを数回くりかえしたあと，子どもたちは喚声をあげて山傘に突入してこわし，オヤンカシタを追い出してしまう。

この行事は，農作物の収穫期にもあたるこの時期に，山から下りてきた神聖な子どもたちが大地を踏みしめたり，大地を指したりして，地の霊を呼び起し，「それはよい（そらよい）」と祝福の言葉を投げかけることにより農耕の豊作を祈る農耕儀礼・収穫儀礼である。